

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	岩国短期大学
設置者名	学校法人 高水学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	幼児教育科	夜・通信	1		22	23	7	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公表方法: 岩国短期大学 Web サイト https://www.iwakuni.ac.jp/dept/pdf/experience.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	岩国短期大学
設置者名	学校法人 高水学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公表方法:高水学園 Web サイト
<https://hojin.iwakuni.ac.jp/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任 期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	有限会社取締役	令和2年6月1 日～令和6年5 月31日	広報担当
非常勤	前新聞社客員編集委 員	同 上	広報担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岩国短期大学
設置者名	学校法人 高水学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)には、すべての授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、予習・復習、学習成果との関連等を記載している。作成にあたっては、記載内容を科会で検討し、変更等があれば教授会で審議、決定している。また、シラバスについてのFD研修会を、学長、事務長、専任教員で行っている。非常勤講師を含む全科目担当教員から提出されたシラバスは、教務担当者及び担当以外の第三者で内容確認をし、修正を行う。シラバスの作成は12月～3月であり、公表時期は年度当初の4月である。公表は学生便覧及びWeb上で行っている。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>『令和5年度シラバス・学習記録』(入手方法:郵送)</p> <p>公表方法:岩国短期大学Webサイト</p> <p>https://www.iwakuni.ac.jp/dept/pdf/syllabus.pdf</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修意欲の把握については、シラバスと一体化した学習記録(ポートフォリオ)を学生が記入し、毎月提出したものをクラス顧問が確認することで実施している。また、授業担当者が欠席学生を欠席状況連絡カードに記入し、クラス顧問に随時提出することで、学修意欲の把握を行っている。</p> <p>学修成果の評価については、専任教員へは教授会等において、非常勤教員へは年度当初に開催される非常勤合同会議において、厳格かつ適正に評価して単位授与ができるよう教務担当者が説明、確認を行っている。成績評価の方法・基準は受講態度(学習意欲等)、小テスト、レポート、定期試験等の適切な方法を用いており、それらは各授業科目のシラバスに明記し学生に周知している。成績評価は、記号(S～F)に加え、各教員がシラバスに記載している評価基準の割合ごとに点数を記入し、合計点と評点が一致するようにしている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学ではGPA制を導入している。GPAは、まず各科目の秀(S)～不可(F)の評価に、それぞれ秀=4、優=3、良=2、可=1、不可=0を割り当てる。次に、それぞれ割り当てられた点数に各科目の単位数を掛けてその総和を求め、全体を総単位数で割って算出する。</p> <p>GPA値は、履修期間終了後、成績評価認定時に算出している。GPA値は、学内推薦規準、卒業判定等の際の活用など、学生に対する日々の学習支援のほか、本学の教育の質的向上に関わる局面において活用している。それらは学生へ周知し、学生個人及び全体の学習の進捗状況の把握と学習指導にも生かしている。</p> <p>また、学年ごとのGPA一覧及びGPA分布を作成し、活用している。</p> <p>GPA及び具体的な算出方法については、学生便覧及びWeb上で公表している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>『令和5年度学生便覧』(入手方法:郵送)</p> <p>公表方法:岩国短期大学Webサイト</p> <p>https://www.iwakuni.ac.jp/students/pdf/binran.pdf</p> <p>GPA制度の導入</p> <p>https://www.iwakuni.ac.jp/dept/pdf/gpa.pdf</p> <p>GPA分布状況</p> <p>https://www.iwakuni.ac.jp/tuitionfree/pdf/gpa_graph.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、卒業の認定に関する方針を含めた学位授与の方針を定め、公表している。学位授与の方針は、具体的な基準によって認定された単位が卒業要件を満たし、かつ、建学の精神と教育理念に対応する学習成果の習得に努めた学生に学位を授与するとしている。また、学位授与の方針は学習成果に対応しており、卒業の要件、資格取得の要件、成績評価の基準を明確に示している。必要な卒業要件は、令和5年度入学生より、基礎教養科目17単位以上、専門教育科目45単位以上、合計62単位以上の習得と定め、学則第9条及び第14条第1項に示している。2月末に卒業判定会議を行い、卒業の認定に関する方針や学生の取得単位数等を踏まえ、厳正に卒業を認定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>『令和5年度学生便覧』(入手方法:郵送)</p> <p>公表方法:岩国短期大学Webサイト</p> <p>https://www.iwakuni.ac.jp/about/policy.html#di</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	岩国短期大学
設置者名	学校法人 高水学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	公表方法:高水学園 Web サイト https://hojin.iwakuni.ac.jp/zaimu/pdf/r04/r04_keisan.pdf
収支計算書 又は損益計 算書	公表方法:高水学園 Web サイト https://hojin.iwakuni.ac.jp/zaimu/pdf/r04/r04_keisan.pdf
財産目録	公表方法:高水学園 Web サイト https://hojin.iwakuni.ac.jp/zaimu/pdf/r04/r04_zaisan.pdf
事業報告書	公表方法:高水学園 Web サイト https://hojin.iwakuni.ac.jp/zaimu/pdf/r04/r04_jigyohokoku.pdf
監事による 監査報告 (書)	公表方法:高水学園 Web サイト https://hojin.iwakuni.ac.jp/zaimu/pdf/r04/r04_kansahokoku.pdf

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称:高水学園事業計画書 対象年度:令和5年度)
公表方法:高水学園 Web サイト https://hojin.iwakuni.ac.jp/zaimu/pdf/r04/r04_jigyokeikaku.pdf
中長期計画 (名称: 対象年度:)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:岩国短期大学 Web サイト https://www.iwakuni.ac.jp/about/appraise/r04_evaluation_report.pdf
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法:岩国短期大学 Web サイト (令和2年度認証評価の適格判定結果) https://www.iwakuni.ac.jp/jaca/index.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 幼児教育科
教育研究上の目的（公表方法：『令和 5 年度学生便覧』『令和 6 年度学校案内』 岩国短期大学 Web サイト https://www.iwakuni.ac.jp/about/policy.html
(概要) 本学の建学の精神は「楽学」であり、「徳性の陶冶を重んじ、人間性を練り鍛える、豊かな人間形成を図る」「地域に生きて働く人材の養成」を教育理念とする。幼児教育科を単科とする本学の教育目的は「保育に関する実践的な知識と技能を協働的な学びの環境において主体的に習得し、課題解決能力と創造力、コミュニケーション能力を会得させ、ボランティア活動などの地域貢献を通して敬愛の精神の練成を図り、学生自らの徳性の陶冶を通じて保育者としての使命感を持ち、社会的に有為な人物となるように教導すること」とし、教育を行う。 建学の精神がめざす「教育実践力」と「人格の練成」、教育理念や教育目的の具現化のために、2 年間で習得させる学習成果を「保育者としての専門的な知識と技能」「表現力とコミュニケーション能力」「責任感と協力性」「地域貢献と敬愛の精神」の 4 つの資質・能力として定め、この 4 つの資質・能力を「本学が求める学生像」として示している。
卒業の認定に関する方針 公表方法：『令和 5 年度学生便覧』『令和 6 年度学校案内』 岩国短期大学 Web サイト https://www.iwakuni.ac.jp/about/policy.html
(概要) 次の要件を満たした学生に対して、社会で活躍できる人材として認め、短期大学士の学位を授与する。 【令和 5 年度生】 ◆卒業要件 卒業必修科目 45 単位（基礎教養科目 17 単位、専門教育科目 28 単位）に加え、専門教育科目の中から 17 単位以上の習得。 ◆幼稚園二種免許状及び保育士資格要件 幼稚園教諭二種免許状の取得要件は、基礎教養科目 17 単位と専門教育科目 57 単位の合計 74 単位以上を習得。保育士資格の取得要件は、基礎教養科目 17 単位と専門教育科目 72 単位の合計 89 単位以上を習得することとしています。幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の両方の取得要件は、基礎教養科目 17 単位と専門教育科目 79 単位の合計 96 単位以上を習得。 ◆成績評価の基準 成績評価の基準については、シラバスに明記した各授業科目の成績評価の基準に基づき、筆記試験、レポート、製作物、実技等の成績や本人の学習状況、受講態度等を総合的に判定して、秀（90 点～100 点）、優（80 点～89 点）、良（70 点～79 点）、可（60 点～69 点）、不可（59 点以下）の 5 段階評価とする。 ◆社会人・職業人としての資質・能力 ・保育者としての専門的な知識と技能 ・表現力とコミュニケーション能力 ・責任感と協力性 ・地域貢献と敬愛の精神

【令和4年度生】

◆卒業要件

基礎教養科目 21 単位以上、専門教育科目が 41 単位以上、合計 62 単位以上の習得。

◆幼稚園二種免許状及び保育士資格要件

幼稚園教諭二種免許状の取得要件は、基礎教養科目 21 単位以上と専門教育科目 57 単位以上の合計 78 単位以上を習得。保育士資格の取得要件は、基礎教養科目 21 単位以上と専門教育科目 72 単位以上の合計 93 単位以上を習得。

◆成績評価の基準

成績評価の基準については、シラバスに明記した各授業科目の成績評価の基準に基づき、筆記試験、レポート、製作物、実技等の成績や本人の学習状況、受講態度等を総合的に判定して、秀（90 点～100 点）、優（80 点～89 点）、良（70 点～79 点）、可（60 点～69 点）、不可（59 点以下）の 5 段階評価とする。

◆社会人・職業人としての資質・能力

- ・保育者としての専門的な知識と技能
- ・表現力とコミュニケーション能力
- ・責任感と協力性
- ・地域貢献と敬愛の精神

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：『令和5年度学生便覧』『令和6年度学校案内』、岩国短期大学 Web サイト <https://www.iwakuni.ac.jp/about/policy.html>

(概要)

【教育課程編成の方針】

幼児教育科では、「教育実践力」と「人格の練成」に努め、高い専門性を体系的に習得させるために、教育課程を次のように編成している。

【令和5年度生】

1. 基礎教養科目

「表現力」「コミュニケーション能力」「協働実践力」「マナーの習得」「文化、社会に対する理解」「自然、科学分野についての理解」「異文化理解、異文化コミュニケーション能力」から編成し、社会での活動の基礎となる深い教養を身につけ、表現力やコミュニケーション能力を備えた社会的・職業的に自立できる人材を育成する。

2. 専門教育科目

資格取得や専門性の高い保育実践力のある保育者を養成するための基礎的・実践的な科目を設置し、実習前指導や見学実習等を適切に行い、「保育実習」「教育実習」の実習の充実を図る。また、保育の現代的課題に応えるための科目を設定し、子育て支援能力等を備えた保育者を育成する。

3. 初年次教育

入学予定者を対象にプレカレッジを行い、短大での学習の取り組み方や保育者をめざす学生の姿勢について確認し、短期大学教育への円滑な導入を図る。また、入学後、「基礎ゼミナール」の科目や「新入生研修会」を通して、学生生活の目標や保育者としての将来像を明確にしていく。

4. キャリア教育

1 年次「基礎ゼミナール」・「キャリア開発Ⅰ」、2 年次「キャリア開発Ⅱ・Ⅲ」及び 2 年間を通じてキャリア支援センターからのガイダンス等を行い、就業力の向上と支援を行う。また、卒業後の早期離職防止のためのフォローアップ・セ

ミナーを実施する。

5. 表現力育成

保育現場での実践に深く関わる、音楽・図画工作・幼児体育の知識や技能習得の充実を図り、またそれらの基盤となる基本的な表現力を育成する「クリエイティブ・ムーブメント」の科目を設定している。

6. 特別活動

さまざまな行事や特色的な取り組みをとおして、協働実践力の醸成を図る。

【令和4年度生】

1. 基礎教養科目

表現力や協働実践力、地域貢献の精神等を身につける「基礎科目」、社会や文化、マナー等の分野の「教養科目A」、自然、科学分野の「教養科目B」、異文化理解やコミュニケーション能力を身につける「教養科目C」から編成し、社会での活動の基礎となる深い教養を身につけ、表現力やコミュニケーション能力を備えた社会的・職業的に自立できる人材を育成する。

2. 専門教育科目

資格取得や専門性の高い保育実践力のある保育者を養成するための基礎的・実践的な科目を設置し、実習前指導や見学実習等を適切に行い、「保育実習」「教育実習」の実習の充実を図る。また、保育の現代的課題に応えるための科目を設定し、子育て支援能力等を備えた保育者を育成する。

3. 初年次教育

入学予定者を対象にプレカレッジを行い、短大での学習の取り組み方や保育者をめざす学生の姿勢について確認し、短期大学教育への円滑な導入を図る。また、入学後、「基礎ゼミナール」の科目や「新入生研修会」を通して、学生生活の目標や保育者としての将来像を明確にしていく。

4. キャリア教育

1年次「基礎ゼミナール」・「キャリア開発Ⅰ」、2年次「キャリア開発Ⅱ・Ⅲ」及び2年間を通じてキャリア支援センターからのガイダンス等を行い、就業力の向上と支援を行う。また、卒業後の早期離職防止のためのフォローアップ・セミナーを実施する。

5. 表現力育成

保育現場での実践に深く関わる、音楽・図画工作・幼児体育の知識や技能習得の充実を図り、またそれらの基盤となる基本的な表現力を育成する「クリエイティブ・ムーブメント」の科目を設定している。

6. 特別活動

さまざまな行事や特色的な取り組みをとおして、協働実践力を育成する。

【教育課程実施の方針】

学習成果を効果的に達成するために次の方針で「シラバス・学習記録」を作成して、学習過程を展開している。

シラバスでは、授業科目ごとの到達目標、成績評価の方法・基準、フィードバックについて明記し、また、学習成果との関連がわかるように明示している。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：『令和5年度学生便覧』『令和6年度学校案内』、岩国短期大学Webサイト <https://www.iwakuni.ac.jp/about/policy.html>

(概要)

本学幼児教育科では、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得し社会貢献ができる人材、また、「保育者としての専門的な知識と技能」「表現力とコミュニケーション能力」「責任感と協力性」「敬愛の精神と地域貢献」の4つの資質・能力を兼ね備えた人材の育成を目標としていることから、次のような人の入学を求めている。

1. 関心・意欲・態度

資格取得に向け、保育や子どもの教育について専門的に学び、将来保育者として社会に貢献したいという意欲のある人。子どもと触れ合うことを楽しみとして、明るく前向きな姿勢を持つ人。様々な学びや体験に積極的に取り組むことができる人。

2. 知識・技能

音楽、造形、身体表現等の内、その特技を有した人。または、身につける意欲のある人。基本的な文章表現力が身につけている人。

3. コミュニケーション能力

自分の思いや考えを積極的に伝えることができる人。他者を尊重し、コミュニケーションを図りながら協働して物事を完遂する意欲のある人。

4. 基本的な生活習慣

挨拶や礼儀、身だしなみ等の基本的な生活習慣を身につけている人。2年間の学業に専念する意欲のある人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：岩国短期大学 Web サイト

<https://www.iwakuni.ac.jp/about/pdf/chart02.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
-	1人	-	-	-	-	-	1人
幼児教育科	-	3人	3人	5人	人	人	11人
	-	人	人	人	人	人	人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
人	24人	24人

各教員の有する学位及び業績
(教員データベース等)

公表方法：岩国短期大学 Web サイト

<https://www.iwakuni.ac.jp/about/achievements.html>

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

FD活動は、FD・授業評価委員会が中心となって規程を整備し、適切に実施している。TP（ティーチング・ポートフォリオ）を導入し、毎月FDによる研修会を開催し、学生による授業評価アンケートを全教職員に実施している。合同研修会等をとおして、授業改善に活かしている。

ピアレビュー、授業評価アンケートについては、報告書も作成し、それぞれの実施だけでなく、それを通して結果を分析・評価し授業改善に取り組んでいる。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a (%)	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c (%)	編入学 定員	編入学 者数
幼児教育科	70人	56人	80.0%	140人	121人	86.4%	0人	0人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	70人	56人	80.0%	140人	121人	86.4%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
幼児教育科	51人 (100%)	1人 (2%)	47人 (92.2%)	3人 (5.9%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	51人 (100%)	1人 (2%)	47人 (92.2%)	3人 (5.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 幼稚園、保育所、認定こども園、障害者支援施設、児童養護施設				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
幼児教育科	61人 (100%)	46人 (75.4%)	4人 (6.6%)	11人 (18.0%)	0人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	61人 (100%)	46人 (75.4%)	4人 (6.6%)	11人 (18.0%)	0人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
 授業計画書(シラバス)には、授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、予習・復習、学習成果との関連、実務教員について等を記載している。作成にあたっては、記載内容を科会で検討し、変更等があれば教授会で審議、決定している。また、シラバスについてのFD研修会を、学長、事務長、専任教員で行っている。非常勤講師を含む全科目担当教員から提出されたシラバスは、教務担当者及び担当以外の第三者で内容確認をし、修正を行う。シラバスの作成は12月～3月であり、公表時期は年度当初の4月である。公表は学生便覧及びWeb上で行っている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>学修成果の評価については、専任教員には教授会等において、非常勤教員には年度当初に開催される非常勤合同会議において教務担当者が説明し、厳格かつ適正に評価して単位授与ができるよう確認を行っている。成績評価の方法・基準は受講態度（学習意欲等）、小テスト、レポート、定期試験等の適切な方法を用いており、それらは各授業科目のシラバスに明記し学生に周知している。</p> <p>本学では、卒業の認定に関する方針を含めた学位授与の方針を定め、公表している。学位授与の方針は学習成果に対応しており、卒業の要件、資格取得の要件、成績評価の基準を明確に示している。必要な卒業要件は令和5年度入学生より、基礎教養科目17単位以上、専門教育科目45単位以上、合計62単位以上の修得と定め、学則第9条及び第14条第1項に示している。2月末に卒業判定会議を行い、卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、厳正に卒業を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	幼児教育科	62単位	④・無	各期25単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.iwakuni.ac.jp/dept/pdf/gpa.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：岩国短期大学 Web サイト https://www.iwakuni.ac.jp/life/map

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	幼児教育科	680,000円	230,000円	220,000円	施設整備費
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
<p>学生生活に不安が少なくなるように、「学生生活のルール」「詐欺等の対処」「ハラスメント防止」などを、「キャンパスガイドブック」に記載し周知している。学生の授業の欠席が把握でき、指導や支援ができるように「学生支援カード」や「欠席状況連絡個人票」で、非常勤講師と専任教員の意思疎通し、毎月の科会で、学生一人一人の情報交換を行い支援している。また、入学前から就職までのキャリアサポートプログラムに沿ってきめ細やかな支援を行っている。</p> <p>その他に、日本学生支援機構や山口県ひとづくり財団による奨学金制度等を入学時に周知している。本学独自の奨学金として、総合型選抜入学者に対する「総合型選抜</p>

特別奨学金」、卒業生子女に対する「卒業生子女等進学支援奨学金」、経済上修学が困難な学生に対する「修学支援奨学金」、社会人入学生に対する「社会人進学支援奨学金」、「遠隔地出身学生生活支援奨学金」等を設置し、学生の修学支援を行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

本学独自のキャリア支援プログラムを作成し、これに基づいて、キャリア支援センターが中心となり、全教職員で進路選択に係る支援を行っている。内容は、入学前の「プレカレッジ」、各学年年2回の就職ガイダンス、「キャリア開発」等の授業での「就職の手引き」を基にした指導、卒業生を講師とした講座、就職試験対策講座、「就職ナビ in いわたん」、キャリア支援センターによる複数回の個人面談等である。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の心身の健康等に係る支援として、まず健康面については、年1回健康診断を行っている。その結果を元に学生の健康状態の把握と配慮が必要な学生について情報共有を行っている。精神面については、学生相談室を設置し、常勤教員の配置と週2日のカウンセラーによる相談体制を構築している。オフィスアワーを設け、教員が学生の様々な相談に乗っている。また障害を理由とする配慮が必要な学生に対して、学生修学支援委員会を中心に支援体制を整えている。配慮内容については本人の意向を尊重し定期的に面談を行いながら決定している。科会等では、クラス顧問や学生修学支援委員会から学生の学習、生活面についての配慮、障害や特性の配慮について報告を受け全教職員で共通認識をしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：『令和5年度学生便覧』（入手方法：郵送）

岩国短期大学 Web サイト <https://www.iwakuni.ac.jp/students/pdf/binran.pdf>